

VARICAM 35 & EVA1 で撮影、同じ V-Log ガンマ収録で色味合わせが容易

## 映画『トウキョウ・リビング・デッド・アイドル』

デュアルネイティブ ISO がアクションシーンやハイスピード撮影に大きな威力



『トウキョウ・リビングデッド・アイドル』の撮影は VARICAM 35 と EVA1 の 2 台体制で行われた

2018年6月公開の映画『トウキョウ・リビング・デッド・アイドル』（製作委員会：TBS サービス、ポニーキャニオン、レスパスフィルム、極楽映像社、トリプルアップ）の撮影は、パナソニックの4Kカメラレコーダー「VARICAM 35」と最新コンパクトシネマカメラ「AU-EVA1」（EVA1）の2台体制で行われた。長編商業映画の撮影に EVA1 が使用されるのは世界で初めて。

撮影を担当した極楽映像社 代表取締役の野澤啓氏は「小型・軽量の EVA1 はハンディ・スタビライザーなどに装着でき、セカンドカメラとして非常に使いやすい。両カメラは同じ V-Log<sup>※1</sup> を採用し、色合わせが容易に行えた。また、両カメラに装備しているデュアルネイティブ ISO<sup>※2</sup> は、アクションシーンが多く、ハイスピード撮影を多用する現場において大きな威力を発揮すると思う」と語る。監督・脚本は熊谷祐紀氏。制作プロダクションはレスパスフィルム、ポストプロダクションはレスパスビジョンが担当した。

※1: V-LOG; VARICAM/EVA1 は 14 + ストップの広いダイナミックレンジを搭載。V-Log モード時のカラースペース V-Gamut は BT.2020 カラースペースをフルにカバーする広い色域を実現している。

※2: デュアルネイティブ ISO; パナソニック独自の技術により、ISO 800 と ISO 5000 (ただし EVA1 は ISO 2500) の 2 つの基準感度をイメージセンサーに搭載。この機能実現のため、イメージセンサーの各画素に 2 系統の専用アナログ回路を実装し、ゲインの前で 2 種類のネイティブ ISO 用アナログ回路を切り替えることにより、ゲインでのノイズを増やすことなく超高感度を実現している。



セカンドカメラの EVA1 は小型・軽量さを生かし、イージーリグ搭載などのアクティブな撮影で威力を発揮

### 長編商業映画の撮影において世界で初めて EVA1 使用

『トウキョウ・リビング・デッド・アイドル』の撮影には、メインカメラとして VARICAM 35、セカンドカメラとして EVA1 が使用された。

極楽映像社では、CINE GEAR 2017 で発表された EVA1 をいち早く導入し、同映画の撮影に“VARICAM 35 + EVA1”の組み合わせによるマルチカメラを活用した。

野澤啓氏は「今回の映画ではマルチカメラが必須だと考えていました。機材の組み合わせについては撮影開始直前まで迷いましたが、低照明下での撮影やアクションシーンも多く、ハイスピードを多用する撮影において非常に使いやすいデュアルネイティブ ISO 機能を装備した“VARICAM 35 + EVA1”の組み合わせによる撮影を提案しました」と話している。

なお、撮影では、VARICAM 35、EVA1 のほか、サブカメラとして 4K 対応 POV CAM やウェアブルカメラなど、各種パナソニックのカメラレコーダーが活用された。

### カメラごとに異なる 2 種の 4K フォーマットで収録

『トウキョウ・リビング・デッド・アイドル』の撮影現場では、V-Log による 4K DCI 仕様の収録を行った。記録フォーマットは VARICAM 35 が AVC Intra 4K444、EVA1 では 422 LongGOP 150M を使用。記録メディアは VARICAM 35 は expressP2 カード、EVA1 は SD メモリーカードで、記録フォーマットと記録メディアともに異なるが、違和感はなかったという。毎日、2 種類のカードから HDD にバックアップを取りつつ、撮影した 4K 素材は全てレスパスビジョンに集められ、編集およびカラーグレーディングが行われた。

極楽映像社 撮影技術 / VE の小林謙一氏は「今回は引きと寄りの 2 台同時撮影もあるため、現場では 2 台のカメラの色合わせがシビアになるのではないかと考えていましたが、同じパナソニックの V-Log なので、色味的にすごく合わせやすく、使い勝手が良いという印象でした」と振り返る。



メインカメラの VARICAM 35 は三脚やスライダードリーに固定してじっくりと撮影



レスパシフィルム「E-1: FilmLight Baselight TWO」におけるグレーディング & フィニッシングの作業を行う金原 兎氏

### V-Log の使用でカラーマネジメントがしやすく柔軟に運用

撮影素材のオリジナル V-log を直接インポートし、コンフォームした。グレーディング/フィニッシングは 4K Color grading suite 「E-1: FilmLight Baselight TWO」で行われた。

レスパシビジョン VFX スーパーバイザーの須賀 努氏は「映画は 2018 年 6 月の公開予定ながら、3 月開催の「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 2018」への出品が急ぎょ決まったため、最短のポストプロダクションワークフローを採用しました。通常はカラコレ前の log ファイルを CG/VFX 向けに DPX で書き出しますが、今回はスケジュール短縮を前提に、最初にカラーグレーディングを行ったカットで CG/VFX 作業を行い、最終的に Baselight でファイナルグレーディング/フィニッシングを行っています」という。

グレーディング/フィニッシングはレスパシビジョンカラリストの金原 兎氏が担当した。

金氏は「当社ではグレーディング/フィニッシングルームを 9 室有していますが、2017 年末に導入した Baselight では初の映画作品となりました。私自身はこれまで、VARICAM 35 の素材は多く扱ってきましたが、リリース間もない EVA1 は今回が初めてでした。同じ

V-Log を使っていることで、カラーマネジメントがしやすく柔軟に運用することができました」としている。

### EVA1 最大のメリットは機動力

極楽映像社では、VARICAM 35 や EVA1 をはじめとする各種 4K/8K カメラを所有しており、予算やスケジュール、使用環境など様々な条件によってカメラを使い分けている。さらに、社内には 4K に対応した編集設備やカラーグレーディング設備も装備しており、撮影から編集、完パケまでのトータルな 4K 制作業務も提供している。映画、テレビ CM に加え、ミュージックビデオやライブビデオ、大型映像、企業 VP とジャンルは幅広いが、同社が現在手がける撮影業務のほとんどが 4K にシフトしてきているという。

今回の「VARICAM 35 + EVA1」の組み合わせについて、野澤氏は「カメラは特性・特徴がそれぞれ違いますが、スピード感が求められるアクションものの撮影には、VARICAM や EVA1 が持つデュアルネイティブ ISO 機能が適していると思います。今回の撮影でも、ライブシーンなどの暗いシーンでハイスピード撮影を行う際、EF の少々暗いレンズでもデュアルネイティブ ISO が使えるので非常に助かりました」とする。

一方、EVA1 の最大のメリットとして「機動力」を挙げる小林氏は「とにかくサイズ感がいい。今回もイーゼーリグに載せて使っていますが、本当に軽い<sup>\*1</sup>ですし、グリップも使いやすい。オプション周りも色々揃えていけば、面白いことがどんどんできそうな気がします。最新ファームアップで、カメラ本体での ALL-Intra (400Mbps) コーデック記録と外部レコーダーによる 5.7K RAW 出力に対応すれば<sup>\*2</sup>、もう完璧なカメラ。EVA1 の活躍の場は増えると思います」と話している。

※ 1: カメラ本体約 1.2Kg / 撮影時約 2.05Kg

※ 2: 2018 年 3 月本体ファームウェアのバージョン UP で対応済み。



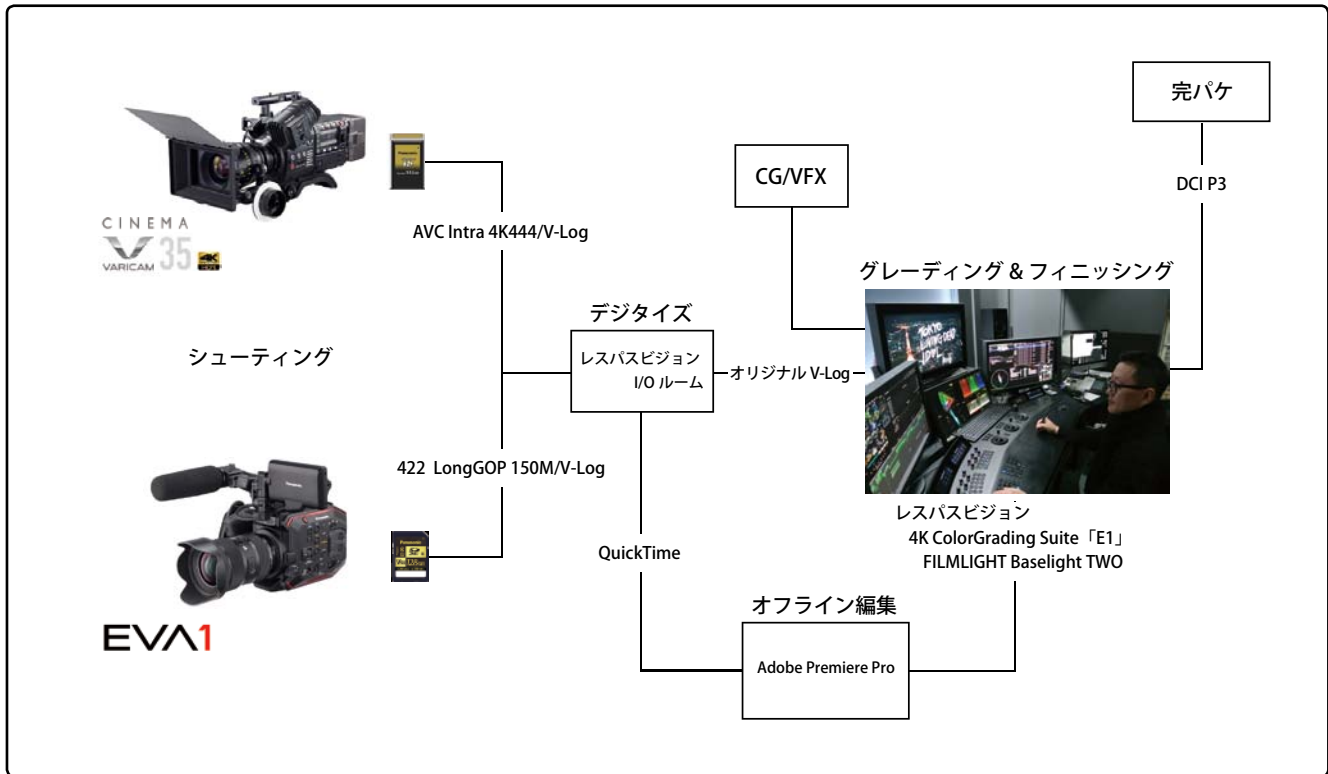
極楽映像社  
代表取締役  
野澤 啓氏



極楽映像社  
撮影技術 / VE  
小林 謙一氏

# 映画『トウキョウ・リビング・デッド・アイドル』

## ワークフロー図



## 新感覚ガールズアクション・ゾンビ映画『トウキョウ・リビング・デッド・アイドル』

『トウキョウ・リビング・デッド・アイドル』は、アイドルにゾンビが合体し、パルクールなどのアクションもふんだんに取り入れた、手に汗握る新感覚ガールズアクション・ゾンビ映画。2017年ゆうばり国際ファンタスティック映画祭出品『ゆるいー特別版ー』や、レスパスビジョンとレスパスフィルム 代表取締役の鈴木



©2018『トウキョウ・リビング・デッド・アイドル』製作委員会

仁行氏初企画作品で3月3日公開の映画『ラーメン食べてえ！』も手がけている熊谷祐紀監督は「アイドルやコメディ、ハードボイルドなど様々な要素も併せ持った特殊な世界観の“楽しく観られるゾンビ映画”」と述べている。

主演は、アイドルグループ SUPER ☆ GIRLS の人気メンバーとして、『人狼ゲーム マッドランド』『恋と嘘』『honey』(3月公開)等の映画や、グラビアでも“1000年に一人の童顔巨乳”と称され、2017年には多くのコミック誌の表紙を飾った浅川梨奈。同作でも人気アイドルでありながら、ゾンビに噛まれてしまう主人公を演じている。

共演は、『ストリートファイター 暗殺拳』、TVドラマ『デスノート』の尚玄、SUPER ☆ GIRLS の阿部夢梨、尾澤ルナ、男性ボーカルグループ SOLIDEMO のメンバーである中山優貴、山口智也、声優や歌手として活躍している星守紗凪、“関東一女子高生ミスコン2013”グランプリの古泉千里、『HIGH&LOW THE MOVIE 2 / END OF SKY』の井澤勇貴などとなっている。